とうきょう
すくわくプログラム

2歳児クラス

～夏野菜～

今年度の２歳児クラスは野菜が苦手な子が多かったので、子ども達と一緒に野菜を育てる中で、興味を持ち、食べる意欲をもってほしいという願いを持ち、夏野菜をテーマに子ども達と一緒に色々な発見をしていきたいと思いました。

≪１回目≫　５月１９日（月）

活動

子ども達と一緒に夏野菜の苗を植え、野菜の表示を作る

準備物

・野菜の苗（なす・ピーマン）　・プランター　・土

・ジョーロ　・シャベル　・ぬりえ　・クーピー

夕方の活動で、夏野菜を植えることを伝えると、園庭に出ると興味を持った子が「やりたい」と集まってきました。保育士がプランターに土を入れ始めると、砂場の玩具の中から各々シャベルを探して持ってきては、「やる～」と一緒に土を入れる作業を行いました。

野菜の苗を目にすると、これはなに？」「ピーマンのあかちゃん？」と話し、苗と野菜が一致していないのか、不思議そうな顔も見せる姿も。ピーマンとナスの苗を見比べ、「はっぱ、ちがうね～」等と話す姿もありました。水やりをすることを伝えると、砂場の玩具の中から水が入りそうなものを見つけ、水をあげていました。

部屋に入った後、野菜のイラストのぬりえを行いました。それぞれ好きな色で塗り、塗り終えたものを使って、野菜の表示を作りました。

≪２回目≫　６月１９日（木）
活動
子ども達と一緒に夏野菜の様子を見てみる

準備物
・野菜の苗（なす・ピーマン）　・はさみ

　習慣となっている夏野菜の水やり行っている中で、一人の子が苗の様子をじっくりと見始め、「あれ？なんだ？」といつもと違うことに気付きました。その姿に気付いた子が「どうしたの？」「なに？」と続々と集まり、一緒に夏野菜を見始めると、ナスの実が出来ていることを発見。「なす、あった～」と大喜びでした。保育士がナスを収穫すると、「みてみて」とナスが出来ていたことを色々な人に伝えにいっていました。他にも、小さい実を一つ・二つと見つけ、数えている姿もありました。

≪３回目≫　８月１日（金）
活動
夏野菜を収穫して食べよう

準備物
・夏野菜　・ハサミ
・カセットコンロ　・フライパン　・包丁　・調味料

園庭に出るとすぐに夏野菜の所へ行った子ども達。ナスとピーマンの実が沢山大きくなっていることに気付くと、「おおきくなってるよ～」と保育士に伝えていました。「たべたーい」という声が聞こえてきたので、収穫をしてみんなで食べてみることにしました。
　収穫後、小さな実のピーマンに触れては、「これはたべられる？」と疑問を持つ姿が。“それは、あかちゃんだから、もっとおおきくなったらね”と伝えると、「はやくおおきくならないかな～」と話し、収穫したピーマンと大きさを見比べている子もいました。

野菜を切りながら、“ピーマンの種って何色だと思う？”と聞いてみると、「みどり」「しろ」「くろじゃない？」との返答が。半分に切ったピーマンの種の色を見てみると、「あ、しろだ～」と驚いた表情を見せる子もいました。他にも「ちっちゃいね～」「いっぱいだ」と種の大きさや量をじっくりと見ている姿もありました。

ピーマン・ナスを炒め始めると、匂い・音を感じながら、見ていた子ども達。「はやくたべたいな」と出来上がりをうずうずした様子で待っていました。

今回は、調理さん特製のみそだれで味付けをしました。待ちに待った試食タイムでは、大小様々なピーマンとナスの大きさを自分で選んで食べてみました。一口食べると、「おいしーい」の声の後に、「おかわり～」という沢山の声。普段は野菜を自分ではほとんど口にしない子も、大きいのを選んで食べてみたり、「ちっちゃいのたべる」と自ら口にしたりする姿が多く見られました。

≪４回目≫　８月２６日（火）
活動
ピーマンの変化を見てみよう

準備物
・夏野菜（ピーマン）　・ハサミ

園内探索の際、夏野菜のプランターを見てみると赤くなったピーマンを発見。「なんで？」「みどりじゃないの？」と不思議そうな顔をして見ていました。その次に生まれた疑問は、「あかいピーマンは、たべられるの？」とのこと。調理室の職員に聞いてみると、“食べられるよ”との返答だったので、翌日調理をしてもらうことにしました。

翌日の昼食時、主菜の上に小さな赤い物を見つけると、「これ、ピーマン？」と昨日見た赤いピーマンのことを思い出し、じっと見たり、大きな口を開けて食べたりしていました。

≪５回目≫　９月１７日（火）～１０月４日（土）
活動
収穫した体験を行事に繋げてみる

準備物
・カラーポリ袋　・新聞紙

運動会の親子競技の内容を考えるにあたり、『子ども達の興味のあること・好きなことは何だろう』と話をしていくいと、子ども達が大切に育ててきた【夏野菜】が思い浮かび、『収穫体験を競技の一つとして取り入れてみよう』ということになりました。そこで、カラーポリ袋の中にちぎった新聞紙を入れ、子ども達と一緒に大きなピーマン・ナスの製作をしました。

『大きなピーマン・ナスを収穫して、カゴに入れて保護者と一緒に運ぶ』。予行練習時には自分達で育てた野菜のことを思い出したようで、「ピーマンやったよね」「なす、たべたね」と話をしている姿もありました。

子ども達が好きなこと・体験したことを行事の中に取り入れることで、子ども達も保護者の方も楽しみながら運動会に参加をしていたように感じました。

≪振り返り≫

活動を行おうと思ったきっかけは、『子ども達と一緒に野菜を育てる中で、興味を持ち、食べる意欲をもってほしい』というところからでしたが、苗を植えたり水をあげたりと子ども達と一緒に活動を行う中で、自然と【夏野菜の世話をする】ということが子ども達の中で習慣化され、保育士等が声を掛けなくても園庭に出るとすぐに水をあげにいったり、大きくなっているかどうかの確認をしたりと、夏野菜への興味関心がどんどんと育っていることを日々感じていました。一度収穫をしてからは、その気持ちは更に膨らみ、子ども達の方から「ぴーまんできたよ」「なすもおおきくなってる」という報告が増えていったほどです。その興味関心は大きさや数にも繋がり、夏野菜という一つの活動の中で子ども達の“気になる”“これってなんだ？”というワクワクした思いは色々な方向に伸びていると感じられました。

水やりは、敢えて事前に道具は準備をせずにいたのですが、そうすると子ども達自身が【何を使ったら水が入るか、どこにいけば道具があるのか】等を考える姿も見られ、すべてを保育士等が準備するだけでなく、子ども達が自分で考えてやろうとする力を伸ばしていく仕掛けを作っていくことの大切さを改めて実感しました。

子ども達と一緒に育て、収穫したものを目の前で調理して食べることで、普段は野菜が苦手な子も“食べてみたい”“食べてみよう”という気持ちに繋がり、さらには『食べられた』という自信が普段の食事にも繋がり、今では野菜を自ら食べる姿が増えたり、調理のお手伝いに興味を持ったりと子ども達の【食】への興味関心はまだまだ続いています。

この経験の中での子ども達の気付きや育ちを大切に、保育士等も子ども達と一緒に色々な発見を楽しみながら、今後の保育にも繋げていきたいと思います。